

**第九回公演・動画解説資料**  
**新作面芝居「紅葉狩」<sup>もみじかり</sup>（戸隠山の鬼女退治）**  
**2016年9月9日、18:00～18:45（約45分）**

垣澤社中(家元・垣澤勉様)によりますと、面芝居は「愛甲の新神楽」と呼ばれ、かつては盛んに演じられていたそうです。神楽のようであり、芝居のようでもある、味わい深い「神楽芸」だと思います。

相模里神楽にあって、この面芝居を継承しているのは、垣澤社中だけだと言われています。垣澤社中は、これまで継承して来た面芝居の演目から、一步前に進もうと新作を舞台上で披露してくださいました。新作は、稽古量の増大を意味します。いわゆる脚本を書き、演出を考え抜いての舞台ですから、私たち実行委員会スタッフは感謝の気持ちでいっぱいでした。

さて、江戸里神楽公演学生実行委員会では、デジタル・オーディエンスを対象に神楽公演動画を、試験的にウェブにアップしました。どうぞ、お楽しみください。

**【あらすじ】**

戸隠山に住む美しい姫・更科姫が侍女たちを連れて、山の紅葉を愛でようと酒宴を催していました。その酒席に、鬼女討伐の勅命を受けた平維茂の一行が通りかかります。維茂は、道を避けようとしますが、気づいた女たちに「是非ご一緒に」と誘われるがまま宴に加わります。高貴な風情の姫はこの世の者とは思えぬ美しさ。酒を勧められ、つい気を許した維茂主従は酔いつぶれ、眠ってしまいます。それを見届けた姫たちは、本性を現し、いずこかに姿を消してしまいます。

そこに、八幡大神の命を受けた山神が維茂の夢に現れ、実は維茂主従を籠絡した姫たちは、戸隠山の鬼女であることを告げ、八幡大神からの下された神剣（小鳥丸・平家一門の家宝）を維茂に授け姿を隠します。

さて、夢から覚めた維茂は夢のお告げで、姫たちが鬼女であることを気づき、授かった霊剣小鳥丸を握り締め、鬼女を追いかけます。圧倒的な魔力で襲いかかってくる鬼女を前に、維茂は勇敢に立ち向かい、激しい戦いの末、神剣小鳥丸で見事鬼女を退治しました。

**【配 役】**

更科姫（鬼女） 垣澤 瑞貴  
侍女（望月） 垣澤 純子

〃	(岩橋)	加藤美津枝
〃	(萩の局)	臼井 良子
山	神	垣澤 良
平	維茂	垣澤 勉
右	源太	塩川 一美
左	源太	中山 敏男

### 【囃子方】

太拍子	大貫 恒文
笛	西方 陽一
大太鼓	神成 信之
足 木	相田アヤ子

### 【舞台台本（主な演技の流れの説明）】

- ①「昇殿」という囃子が流れ、舞台上手では侍女たちが酒宴を開いております。
- ②維茂一行が下手からやってきて、侍女たちに気がつきます。
- ③維茂は宴の様子を見て来なさい、と従者に命じます。
- ④従者に声を掛けられた侍女たちが、維茂主従を呼びとめます。
- ⑤そこに更科姫が現れ、あまりの美しさに思わず足を止める維茂主従。そして、侍女たちが酒宴に誘います。女性らしい優雅な囃子「れんぼ」が流れます。
- ⑥酒宴の支度となり、それぞれ設けの席に座ります。
- ⑦勧められるがまゝに酒宴となりました。陰囃子は「昇殿」です。
- ⑧まず維茂と姫の盃が酌み交わさ、その後は従者と侍女たちの宴席となりました。
- ⑩宴がすすみ、維茂が舞を所望します。
- ⑪侍女が姫に向かって舞を所望いたします。

- ⑪ 恥ずかしがる姫に、維茂も酒の酔いが回ってか強く勧めます。
- ⑫ 維茂に言われては断れない姫は、「鎌倉」からゆっくりな「乱拍子」の曲に合わせて「妖変之舞」を扇と紅葉で舞を舞います。
- ⑬ 舞っていくに連れ、怪しげな妖気に包まれ、維茂主従は眠りの世界に入ります。
- ⑭ 舞の最中、段々と様子がおかしくなる姫。上手の表で足を踏み込んだ後、お囃子は少しゆったり気味の「大宮」という曲です。
- ⑮ 「大宮」という曲はごく限られた場面でしか演奏されない、大変珍しい曲です。今回は姫から鬼女へと変化する場面で用い、姫を「大宮」、鬼女を「早」で表現します。
- ⑯ 口で啞える面（啞え面）を用いて、姫を表す「小面」と鬼女の前段階を表す「生成（なまなり）」の面で早替えします。
- ⑰ 最後に完全な生成となった更科姫は舞台中央で見得を切ります。
- ⑱ 生成となった姫は、維茂に睨みをきかすと、六方を踏んで舞台から一旦はけます。侍女たちもおどろおどろしくはけていきます。
- ⑲ お囃子が静かになり、禮の音だけが鳴り響きます。
- ⑳ どこからともなく山神が現れ、神前にて「おゝ、吾は八幡大神あわの命を蒙めいりまかりこしたなり」と唱え、維茂一行の目を覚まさせるため、舞台中央で維茂に向かいます。「のうのう如何に平維茂 今までこれにありつる者 戸隠山の鬼女なるぞ 永い至さば いとはやはやげざんも危うき事なるぞ 早々下山致すべし」と、謡います。
- ㉑ ゆっくりの「大宮」となり、「夢醒し之舞」を舞います。
- ㉒ 維茂主従に近づき、何度も何度も起こそうとしますが、鬼女の魔力にかかった彼らは、なかなか目が覚めません。

㊸最後に山神は、平家の家宝である「小鳥丸」を維茂の手元置き、神通力を授けます。

㊹山神は再び禮の音で去ります。

㊺笛の一吹きでハッと目を覚ました維茂。手元の剣を見つけ我に返り、従者を起こします。

㊻従者に鬼女を追いかける様に命じます。従者たちは、びっくり慌てふためきながら鬼女を追いかけます。各々剣、弓矢を持ち「乱拍子」で引っ込みます。

㊼狩衣の袖を括り上げ、戦いの準備をした維茂も鬼女のあと追いかけます。

㊽維茂が花道に向かおうとした時、下手から鬼女がにじり出て、舞台中央で相対します。

㊾維茂の手には名刀小鳥丸、鬼女は生成から完全な鬼女の姿と変化し、髪の毛は黒い垂毛から赤い振毛に、手には杓杖を持っています。

㊿激しい戦いを繰り広げ、魔力を持って鬼女が維茂を封じ込めます。

㊸維茂のとどめを刺そうとする鬼女に霊剣小鳥丸の神通力が立ちはだかつて、なかなか近づくことができない鬼女。

㊸鬼女は「蜘蛛の糸」を維茂に投げつけます。

㊸強大な魔力によって、維茂は力を奪われてしまい、倒れてしまいます。

㊸しかし小鳥丸の神通力が目覚め、維茂は鬼女の喉元を突いて鬼女を退治します。

㊸苦しむ鬼女は、悔しさを露わにして戸隠山から逃げていきます。

㊸鬼女を見送った維茂は、「信濃なる 北向き山の 風誘い 妖<sup>あや</sup>し更科<sup>と</sup> 疾くと散りけり」と謡い、幕となります。

○基本データ（奥付）

動画名称 『第九回楽しくて、わかりやすい江戸里神楽公演～紅葉狩』（会場撮影）  
動画番号 9-05  
出演団体 相模里神楽 垣澤社中（神奈川県厚木市酒井）  
公演会場 さいたま芸術劇場小ホール（さいたま市中央区）  
主催 江戸里神楽公演学生実行委員会  
開催期日 2016年9月9日（金）  
撮影編集 イナ・ヴォイス若葉会（会長 葭谷昭）  
動画UP 葭谷 昭（いきがい大学伊奈学園ボランティア情報センター）  
江戸里神楽公演学生実行委員会  
写真撮影 ソニオンフォトクラブ有志（会長 辻田勝裕）  
参考資料 『第九回楽しくて、わかりやすい江戸里神楽公演解説プログラム』（2016年9月9日刊行）

○公演協賛会社等（敬称略）

有限会社望月商店 有限会社ドゥクラスター 株式会社フミテック 株式会社大丸衣裳店 有限会社とらや 整体リラクワ表参道 株式会社ベル・アンファン 白石真弓染色アート学院 JA あつぎ厚木市農業協同組合 湘北短期大学 株式会社程島商店 有限会社豆庄 株式会社福田建具 共栄建設株式会社 岩槻人形協同組合 薄井崇宏

**追記・垣澤社中の功績・神奈川の大学生スタッフの尽力**

第九回公演、私たちは神奈川県厚木市酒井から、相模里神楽 垣澤社中をお招きしました。私は、そのことの大変さを伝えるとき、出演者のスケジュールをまず伝えることにしています。公演当日、午前6時30分に本厚木駅に集合して、6時46分発の「さがみ68号ロマンスカー」に乗車、なんとか午前9時前にさいたま芸術劇場（新宿駅経由で埼京線与野本町駅下車）にお越しいただいた、という事実です。

演じ手さんは、それから支度をして、リハーサルへ。昼食も慌ただしく（もちろん、夕食も慌ただしい）打ち合わせをしながら、着付けに入らないと間に

合いません。序開きの寿式三番叟からフィナーレの寿獅子舞までの一日は、着付けの連続ですから本当に修羅場だったと思います。

9月9日の前日、つまり8日ですが厚木の家元の家から神楽衣裳その他の神楽用具を積み出して、午後3時過ぎには二台の自動車で劇場まで運び込んでいます。小ホールの舞台裏付近で開梱して、衣裳・道具の確認をしておられました。道具に忘れ物があったら、アウトですから懸命な確認作業がありました。

立ち会った一部の学生スタッフは、その後、劇場内で明日に向かってのミーティングを開催されていました。9日の午後8時。終演後、お客さんをお見送りしてから片付けに入り、レンタカーに積み込むまでの時間がおおよそ1時間余でした。さすがに、舞台を終えて、片付けて、厚木まで運搬するのは、無理。疲労困憊の状態ですから危険。そこで、垣澤父子のお二人が劇場近くに宿泊して翌朝、厚木に戻って行かれたしだいです。

翌朝には劇場にて、プログラム、チラシなどの残部を小さな日産マーチ・神楽号に積み込み、そしてレンタルしていたスクリーンとプロジェクターの搬出準備に追われていました。

動画を再生しながら、当日にご来場ただ来ました皆様、そしてデジタル・オーディエンスという未知の方々に対して、「あらゆる困難を克服して、垣澤社中の皆さんが公演にご協力してくださった」という事実をお伝えしたいと思いました。同時に、相模の神楽師魂もお伝えしたいと思いました。

加えて、学生ボランティアの活躍についても、一言触れさせていただきます。平塚市の東海大学、厚木市の湘北短期大学から、ボランティア学生スタッフが参加されました。東海大スタッフは舞台、字幕制作を担当していただき、湘北短期大学の学生スタッフは、司会進行を担当してくださいました。東海大スタッフも垣澤社中と同じように早朝に出発、湘北短期大学の学生スタッフは浦和で前泊という手配をされての参加でした。こうした大学サイド、大学生スタッフのご協力があって、この公演は成功したのだと思っています。深く感謝しています。

(構成&文責・江戸里神楽公演学生実行委員会)

**ご参照** 新作神楽に関して、ご来場者の感想はウェブにアップされているのでご一読ください。当ウェブ「新着情報」2016年9月26日アップ(神川町のNKさん)、同じく2016年10月24日アップ(埼玉県のTKさん)の感想文をどうぞ。